

◎見付宿めぐりコース

太田川橋⇒桶ヶ谷沼⇒三ヶ野旧東海道⇒古戦場・大日堂⇒愛宕山・愛宕神社⇒阿多古山一里塚⇒矢奈比賣神社(見付天神)⇒宣光寺⇒淡海国玉神社⇒旧見付学校⇒旧赤松家⇒栗田家土蔵群⇒西光寺



①桶ヶ谷沼

日本有数の『トンボの楽園』として知られ、日本の秘境100選の1つ。沼周辺には、多くの動植物が生息しており、ベッコウトンボをはじめとするトンボは67種類、県内のトンボの3分の2、国内の3分の1の種類が確認されている。

また、マガモなどの野鳥、魚類、水生植物その他の生物も多く、まさに自然の宝庫となっている。桶ヶ谷沼とその周辺約50.5haは、平成3年(1991年)に静岡県自然環境保全地域に指定されている。



②三ヶ野旧東海道

旧東海道ルートのうち、松並木が現存している箇所は、三ヶ野坂と下万能と森下の県道磐田細江線の沿道に一部存在するだけで大変貴重であり、街道文化の生き証人である。



③古戦場・大日堂

この大日堂の高台には、本多平八郎物見の松と伝えられる大松が存在していた。この丘陵に立てば、太田川から遠く袋井まで一望でき、本多平八郎の物見もさぞやとうなずける戦国ロマンがただよう。



④愛宕山・愛宕神社

現在は「愛宕神社」といわれているが、御本尊は白馬に乗った「愛宕勝軍地藏菩薩」で山伏の守護神であり、脇には「不動明王」と「神変大菩薩=役の小角(えんのおつ)」が控えている。12年ごとの御開帳には御本尊と脇像の扉を開き、本殿前に柱(角塔婆)を立て、御本尊の右手と柱を5色の糸と紐で結び継ぎ、それに触れることで、祈願が成就するといわれている。



⑤阿多古山一里塚

一里塚は、江戸時代の初期(1604年以降)に整備されました。阿多古山一里塚は江戸から62里目、京から64里目の位置にあります。一里塚が残っているところは少なく、さらに阿多古山一里塚のように街道の両端に塚が現存する例は極めて珍しく、昭和42年に磐田市の指定史蹟になっています



⑥矢奈比賣神社(見付天神)

矢奈比賣(やなひめ)神社 正式名であり「見付天神」ともいう。祭神は、矢奈比売命と菅原道真公を祀る。矢奈比売神社の記載は、承和7年(840年)の「続日本後記」や、貞観2年(860年)頃の「日本三代実録」にも見ることができる。また、延喜5年(905年)の「延喜式」にも記載されている古社。



⑦宣光寺

宣光寺は見付宿の中にあり、東海道を行き交う人々が立ち寄り、旅の無事を祈願した。地蔵堂内には江戸時代に奉納された絵馬・算額も残されている。また、境内には徳川家康寄進の釣鐘があり、身分を問わず多くの人の信仰を集めていた寺院であることがわかる。



⑧淡海国玉神社

創立年は不詳であるが、平安時代に書かれた「延喜式」にはその名が見られる。遠江国の総社である。社殿は、本殿・幣殿・拝殿からなる。幣殿・拝殿は宮大工立川昌敬によって再建され、特に拝殿向背の子持ち龍並びに見返り獅子・欄間の干支の彫刻に、その手法が顕著に表されている。本殿は木鼻・虹梁などの装飾が豊かであり、和



⑩旧赤松家

近代日本の造船技術の先駆者で、明治期に磐田原台地に茶園を開拓した海軍中将男爵赤松則良の邸宅跡です。明治20年代に建てられた門・塀・土蔵は県・市の指定文化財となっています。敷地内には庭園と旧赤松家記念館があり、記念館では旧赤松家ゆかりの文化財や寄贈資料等を展示するほか、有料で磐田茶の一服も楽しめます。



⑨旧見付学校

旧見付学校は明治8年に落成・開校式をあげた、現存する日本最古の木造擬洋風小学校校舎です。明治16年に3階部分を増築し、5階の建物となりました。現在は教育資料館として、教育関係の資料を中心に展示しています。



⑪栗田家土蔵群

5棟の土蔵は明治初期から昭和初期にかけて順次建設されたと思われる。かつて磐田を代表する産業であった煙草業に使用される。現在ではほとんど見られなくなった貴重な近代産業遺産で、見付の景観を残している。(外観のみ見学可)



⑫西光寺

西光寺は、文永2年(1265年)真言宗の寺院として創建されましたが、時宗の開祖・一遍上人を迎えて改宗しました。ご本尊は阿彌陀如来。山門手前にある表門は徳川家康の別荘として建てられた中泉御殿の門でした。楼門脇には樹齢500年といわれる大クスとナギの木があり、いずれも磐田市の天然記念物に指定されています。

★磐田地区の特産品★



見付天神名物栗餅

江戸時代、見付天神大祭に神供の新粟で作ったのが始まりと言われてます。あっさりとした甘みで歯ごたえのある餅です。